資料６－１

令和４年(2021 年)４月 27 日(水)
第６回市民参加推進審議会

第５回　八王子市市民参加推進審議会（第７期）　会議録

会議名		第５回　八王子市市民参加推進審議会（第７期）
日時		令和３年（2021 年）12 月 22 日（水）午後６時 30 分～午後８時 30 分
場所		生涯学習センター（クリエイトホール）11 階　第７学習室
出席者氏名	委員	小林勉委員、山本薫子委員、井出勲委員、岡崎理香委員、田中泰慶委員、繁野遥香委員、星原徳之委員、山田真実委員
	説明者	―
	事務局	渡邉和樹（広聴課長）、宮野努（広聴課主査）
	その他市側出席者	古川由美子（総合経営部長）、小俣英一（子ども家庭部青少年若者課長）
欠席者氏名		なし
議題		１．諮問事項「若い世代の市民参加の推進について」の議論 （１）配布資料を基に意見聴取
公開・非公開の別		公開
非公開理由		―
傍聴人の数		１名
配付資料名		資料５－１：第４回八王子市市民参加推進審議会（第７期）会議録 資料５－２：第４回八王子市市民参加推進審議会まとめ 資料５－３：若い世代（39 歳以下）のうち、現役・就労世代（学校教育終了後）の市民参加の現状、課題、方策 当日配布資料１：39 歳以下のカテゴリー 当日配布資料２：LINE に関する取組事例
議事内容		次ページ以降のとおり

【議事内容】

開会

小林会長　　・第５回市民参加推進審議会を開催する。
　　・本日は半数以上の出席があるため会議は成立する。
　　・傍聴を希望される方はいるか。

（事務局確認、傍聴者１名。小林会長、傍聴を許可。傍聴者入室。）

小林会長　　・では「若い世代の市民参加の推進について」の議論に入る。

１．諮問事項「若い世代の市民参加の推進について」の議論

（１）第４回審議会の論点整理

（２）配付資料を基に議論

小林会長　　・今回で諮問事項「若い世代の市民参加の推進について」の議論は最後になる。
　　・皆さんから忌憚のない意見を伺いたい。
　　・副会長から当日配布資料１の説明を願う。

山本副会長　　・当日配布資料１の説明する。案なので、皆さんからのご意見をいただきたい。
　　・39 歳以下の市民と言っても、どのくらい八王子に住んでいるのか、八王子市とどういう関わり方があるのか、地域への愛着や定住性がどれくらいあるかなどで違ってくる。
　　・市民参加に関わろうとする方の中で、関わろうと思う度合いが強い、または何か仕掛けをすれば関わってくれると思われる人たちを類型に分けた。
　　・資料の一番外側の円は、八王子にこの後も住み続けたいという方で市民参加に関わってみようか、またはこれまでにも関わったことがあるという方です。
　　・A-1 は市内の在住居住年数が、10 年以上あるいは 5 年以上で、いろいろ議論が入るところだと思うが、一定の期間住んでいて、特に持ち家を持ってる方は、これからも住み続けていく、またその地域に関わろうという意識が高いと思われる。
　　・A-2 は市内在住で戸建てや分譲のマンションの持ち家を持って住んでいる方で、定住性が高い層になっている。
　　・B は市民参加に参加するためには一定の時間的な余裕が必要になってくるので、経済的に厳しくて、仕事をいくつも掛け持ちしている方だと、参加したいという気持ちがあっても、時間の余裕がないので、一定程度の世帯の収入があることを書いている。時間的な余裕と関連させた意味での、世帯の収入という意味となる。仕事で 1 日が終わってしまうとか、子育てで自分の時間がない方と言うよりは、一定程度の余暇活動に参加できる時間的な余裕を持っている方は、B-3 に当たる。
　　・A と B に当てはまる方の中に、すでに参加したことがある方と、あまり参加に関わったことがない方の二つに分けられる。すでに参加したことがある方は八王子の市内で個人的、または仲間と一緒に市民参加でボランティア活動に参加した経験がある方達で、または市内で活動する団体や組織にすでに所属している方たちで、参加の関わり方はいろいろあると思う。
　　・あまり市民参加に関わっていない方達で D、E、F という三つのカテゴリーを考えた。
　　・D はまだあまり市民参加に関わっていないが、市内や近隣に一定の人的ネットワークや地域とのつながりを有している。特に市内在住で小中高、または市内や近隣の

大学に通っていて、これまで市民参加やボランティア活動には関わったことはないが地域社会への繋がりは一定程度ある方。または市内在住で市内もしくは近隣で勤務していて、仕事を通じて地域とつながりがある方。

・E は市民参加、ボランティアの経験はあるが市外でやったことがある方で、市民参加やボランティアは経験があるので、潜在的に参加の可能性がある方。

・F は子どもがまだ親と一緒に行動するような年齢のお子さんを持つ家族の場合で、子どもと親が、または家族と一緒に参加することが期待できる層となっている。F-8 は小学生がいる家族で一緒に市民参加やボランティアのイベントなどに参加することが期待できる方。

・どういう人たちに積極的に働きかけていくと効果的なのか、どういう人たちが潜在的な可能性を持っているのか、どういう人たちのことを優先的に考えていけばいいのかということを資料にしたので、いろいろ指摘をいただきたい。

小林会長　・山本副会長からの説明を踏まえてご意見をいただいたと思う。岡崎委員いかがですか。

岡崎委員　・若い世代で市民活動や市政への参加に興味を持って参加してくれてる人たちを逃さないようにすることも大切だが、参加予備軍をこちらの方に呼ぶことも大きなポイントになると思う。

・山本副会長が作成した資料は、カテゴリーの中で参加予備軍に当たる層がどんどん狭められているので、どこにアタックすれば良いかを考えるには良い資料だと思う。

・自分の経験から市民活動や市民参加のきっかけになったのは子育てなので、子育て世代の子供がいる事が一つの要素になるので F 層が大きなターゲットになると思う。

・子どもがいない人やまだ家庭を持つ前の人もいるので、今まで抜けていた D－6 市内もしくは近隣で勤務している若い世代もターゲットになるというところで企業へのアプローチが足りないと思った。

・公益的な目的のためにスキルや専門知識を活かしてボランティアをするプロボノ制度というものがあって、それを勧めている企業がたくさんあると聞いている。

・自分の知識や経験を活かした社会貢献を経験すると自分の職場に戻ってきた時に高いパフォーマンスをするといった研究結果もあると聞いている。

・八王子市内の企業に働きかけて、地域課題を一緒に解決する社内プログラムを企画してもらうなど企業にも協力してもらうと企業に勤務する若い世代に市民参加の情報が届くと思う。協力してくれた企業には、八王子市のアワード制度を行ったりして、若い人たちの市民参加の増加を図ることもできると思った。

井出委員　・市民参加の促進は端的に言うと地域自治の成熟度を高めることだと思う。その入口として SNS やアプリがある。

・今、在宅勤務や働き方改革で時間が取れるし、岡崎委員が言ったように、ボランティア休暇も充実してきた。デジタルネイティブの若者に情報を届けるには、これまでのような文章を羅列するだけの行政の伝え方だと伝わりにくいと思う。

・写真、題名、活動場所、活動内容だけの情報だと伝わりにくいので、その人たちの思いや熱量を公平性などを考慮しながら行政も伝えていく視点が必要だと思う。

・岡崎委員が前回、日本遺産の話をしていたが、国に認めてもらったり、他市の人に伝える時には、ストーリーがないとだめだと思う。情報発信の工夫が求められてい

ると感じている。

・八王子は面積が広く地域性に富んでいるが、エリアごとの考え方を集約する方法や仕組みが十分とは言えない。それを中学校区でやるのはいい流れだと思う。あとはスピード感や、産官学連携をはじめ地域資源の繋がりが大事になってくると思う。

小林会長　・若い人は文章を読まず、どんどん画像で進んでいく。これは答申に盛り込むべき事項だと感じた。行政側が不特定多数の人に情報発信するときは、平準化された発信の仕方をする。行政である以上、原理原則であることは分かるが、それでは情報発信の仕方に熱量がこもらない。八王子に限らず行政機関はそうではないことも考え始めなければならない。

・コロナ禍の影響でリモートワークが常識化しつつあり、通勤などに要する時間がなくなってきた。そういう時代の流れを踏まえて、情報を発信する際に行政側の心構えもパラダイムシフトしてもいいのではないかと感じた。

星原委員　・当日配布資料 1 はどういった層になるかの参考になる。子どもがいる家庭なら F、子どもがいない家庭は D、市内のネットワークに関連するところだったら E とわかりやすい。

・議題によって、参加する層、分類の仕方も変わると思うので、議題を明確にして、ターゲットにあった人たちに参加してほしいと届けることが大事だと感じた。

・岡崎委員が言っていた企業に対するアプローチの部分はとても共感した。

・現在働いている会社は、企業理念として社会貢献の項目を掲げている。

・以前勤めていた会社は 23 区にある会社だったが、区長から会社にアプローチがあって地域貢献してほしいという依頼があった。地元の高校生たちをインターンとして受け入れて、仕事を実際に学んで参加してもらい、社会に出る前に職場経験をしてもらった。

・そういうアプローチの仕方は可能だと思うし、会社が市のバックアップをして全体を盛り上げていくような参加の仕方もあると思った。

・八王子の市政へ参加する一端を担っていくことで、徐々に参加の機会を広げていければ、こういった活動も広がっていくと感じた。

小林会長　・星原委員としては、八王子市からの市民参加のアプローチが手薄な感じはするか。

星原委員　・手薄というか、見えていないと思う。今何かしているということが届いていない状況だと思う。

・何かしていることがあったら、広報で掲げたり、結果を大々的に発表したり、地域貢献しているとか、参加者を称えてると、次の活動に繋がる良い循環が作られると思う。

小林会長　・事務局から意見を伺う。

古川部長　・市民参加というか、企業と協定を結んで地域貢献しましょうとやっているが、協定を結ぶことがメインになっている。地域貢献、地域課題を一緒に解決していくための働きかけがまだ充分ではないと思った。

渡邉課長　・里山や緑の保全などは民間会社や地域の方に協力してもらっているが、皆さん知らないかもしれない。

星原委員　・参加した企業も、八王子市が取り上げたら、やったかいがあったと思うし、宣伝ではないがリターン、リワードにもなると思う。そこはウィンウィンな形になって、他の企業も取り上げてもらいたいとなって、いろいろなところに繋がっていい循環

ができると思った。

小林会長　・星原委員が言ったように好循環がつくりだされる仕組みは、八王子市に限らず必要なのではないか。

・僕がオリンピック関連で経験した事例で、モンゴルの知的障害者のスペシャルオリンピックスを開催する時に足りない用具やユニフォームを日本のいろいろな会社が援助して、その結果モンゴルの卓球チームがスペシャルオリンピックに出られた。報道はされてはいないが、こういった貢献に対してスポーツ庁から長官賞を表彰され、援助した企業側はテンションが上がった。

・アワード形式があるとモチベーションが作られる。仕組みづくり、仕掛けづくりは大変だが非常に大事な視点だ。

繁野委員　・当日配付資料１で、八王子青年会議所に所属している人は40歳以下でC－4の市内で活動する団体組織に既に所属している人になる。

・毎月、青年会議所で授業を行っている。その中で課題には、どのような背景があって、どのような目的で、どのような手法で達成するかを議論している。組織に所属していれば、そういう形で市民参加や活動に携わることができる。

・八王子青年会議所に所属してる人は、39歳以下で市内在住か在勤のどちらかの人なので、C－4以外ではD－6が近しい。

・組織に所属しなくても市民参加したいと思った時に、先ほど岡崎委員が言っていたプロボノのように、八王子の地域課題を解決するプログラムがあって、それが発信され、企業単位や個人単位で参加できて、参加すると「てくぽ」のようにポイントが貯まるものがあるといいと思う。

・星原委員が言っていた、市民参加を一定程度やると、八王子地域アワードのような形で表彰されるのもいいと思う。

・地域の課題解決に向けて参加してほしい時は、どこかを経由してではなく、ぱっと見て、個人で選んで参加できればいいと思う。例えば、公園や河川敷でゴミ拾いをやりたいと思った時に、市ではアドプト制度があり、団体として登録できると思うが、募集している所管がたくさんあって、やるまでにハードルが高い。

・八王子市のLINEに登録したら１ポイントもらえるとか、そのレベルの参加でも構わないと思う。

・参加が累積され、アプリのポイントや市から表彰されると参加しやすいと思った。

小林会長　・市としての意見はどうか。

渡邉課長　・前回、「てくぽ」とLINEが連動しないのかという話があったが、「てくぽ」はスマートフォンアプリを使用するもので、今回の実証実験ではポイントを使用するには電子申請で個人情報を入力して使用申請を八王子市に出さないといけない。個人情報を扱うので、LINEと連動して操作できないが、そういったところが課題だと思っている。

・今のように気軽に市民参加ができる仕組みは新しい意見だと思った。

小林会長　・身近でかつ支えあいの一歩というのを、どうやって市民の方々の耳元に届けるかが重要だと思う。

・どこかに登録してボランティアを５人集めるとなると、尻込みする方はいるはずだ。そこは本当に大きな課題だと思う。

田中委員　・皆さんの意見を聞いて、市の発信が大事だと思った。当日配布資料２の中でLINE

に参加してもらうために市の職員が一生懸命動いて登録者を増やした事例がある。

・小学校PTAの小P連で活動している人はボランティアの精神に富んでいる人が多く、子どもが学校を卒業して活動が終わってしまうのはもったいない。教育に関するテーマがあったら、小P連経由で、参加者をピックアップしてもらって参加してもらうような具体的なアプローチをしていく必要があると思う。

・参加してくれませんか、ではなくて、参加してください、そういうアプローチも必要だと思う。例えば、こういうテーマがあるのでスキルを貸してくださいとか、提案をしながらやっていくとたくさん集まるのではないか。

・参加予備軍は有力な呼び込み対象になると思うので、これから 39 歳以下の若い世代を中心にしながら、高齢者やもっと若い世代も含めて皆さんでアプローチしていけばいいと思った。

・いろいろな種類のボランティア団体があると思うので、テーマにあったボランティア団体に参加してもらえないか、スキルを貸してもらえないかと、こちらからアプローチする必要があると思う。そうすれば参加してもらえることもある。

小林会長　・市がボランティア団体などののデータを持つことは重要だと思う。市でそういった集約したデータはあるのか。

渡邉課長　・把握していない。教育関係や市民協働活動関連などの所管別であればわかるが、まとまったデータはすぐに出てこない。

・私も潜在的な予備軍だったので、今言われたように、参加を広げるためには地道な活動や直接参加を投げかけることは大事で、このテーマだったらこの団体でというアプローチは必要だと思った。

田中委員　・みんな参加予備軍だと思う。参加までの距離が近い予備軍と距離のある予備軍があると思う。距離のある予備軍をより近い予備軍にしていくことが大事なのではないか。難しいと思うがリードしていく、引っ張り込んでくることも必要だと思う。

山田委員　・市民参加まで距離のある人なのか、近い人なのかの話があったが、浅く広く広げたいか、深く掘り下げて広げるのかで、広がり方が違うなと感じた。

・私は 39 歳以下で八王子に住んでいるから、興味があるから見て知ろうとするが、八王子市外の人だと、情報が来て見て知るか、どこかに行って、そこにあるポップを見て知るしかない。

・先ほどから、ボランティアとか利益的なことが出ているが、面白さが足りないと思った。

・話題性があれば取り上げてもらって調べる。でも調べたときにわかりやすくしなければならない。SNS を使用するにしても何かプラスでお得感のあるものが必要なのか、面白さで知ってもらうのか、それが一歩入るきっかけづくりだと思う。

・今街を歩くと「てくぽ」と連動したPayPayキャンペーンの周知がたくさんあるが、PayPayをやってないので、逆に目について引いてしまっている。PayPayのキャンペーンも市がやっていると今日分かった。結局楽しいことに人は行き着くと思った。

渡邉課長　・私もPayPayを使ったことがなかったが、このキャンペーンで使い始めた。

・実際私も敬遠していたが、使ってみたら非常に便利で、こういう風に世の中変わって行き、知らないうちに一歩踏み込んでしまった。前回、皆さんもLINEを登録してもらって一歩踏み込んでもらった。

・手軽に市民参加でポイントが貯まれば、市民参加が広がる可能性はあると思った。

山本副会長　・星原委員や繁野委員が言ったように、基本的な概念図なので、テーマに応じてターゲットを考えて進めていければと思う。
・後半のお話はどうやってアプローチしていくかというところと結びついていたと思う。
・予備軍には声をかければ参加してもらえる可能性があるし、具体的なテーマを設定すればよいと思う。アプローチの方法は、例えばインターネットを使って声かけしやすい層とか、または田中委員が言ったように、手に届く層にアプローチするのではなく、今は無理でも何年か先に八王子市に関心を持ってもらい、地域に住んでいる意識を持ってもらえるといいと思う。
・今コロナなので難しいが、顔を合わせて同じ時間を共有して、一緒に何か取り組むことで共同意識とか仲間意識がつくられるので、アプローチの仕方とか、どう関わってもらうか、何パターンか考えられると思う。
・みんなと一緒にイベントを作り上げようみたいな所から、事務局で言っていた、気軽に短い時間でもすぐに実感できるようなものまで、メニューが幅広くなることが重要だと思った。

岡崎委員　・市民参加はご奉仕ではないし、では、何だろうと考えていた。
・市民活動団体の人達は、自主的に楽しんで好きなことをやって、結果的に地域も自分も元気になるような人たちが多く、ボランティアや市民活動というより趣味の活動とボーダレスになっている。例えば、農作業や畑作りが好きな人は農家の放棄した休耕地を借りて、畑を作って楽しんだり、収穫したものを子ども食堂などにあげたりしている。でも自分たちが奉仕していると思っていなくて好きなことを楽しんでやっているが結果的に環境保護や子育て支援、子どもの食の問題の解決に寄与している。
・山田委員も言っていたが、楽しくないと続けられない、しかも自主的にというところが重要だと思う。そのためには豊富なメニューが必要で、それをどういうツールで提示できるかが大事だ。
・私が所属している市民活動協議会や井出委員が属するボランティアセンターなど、いろいろな組織や団体と連携して、一斉にメニューを出せるといいと思う。
・いろいろな団体ごとに情報を出しているため、お互い知らないことがある。ボランティアセンターがあって、市民活動協議会があって、それらはどう違うのか市民には全然わからない。
・井出委員と協力連携しようと言っていて、なるべく一緒に情報発信している。
・先日大学コンソーシアム八王子と一緒にうちの協議会や社会福祉協議会と連携してシンポジウムを開くことを考えた。他にも今まで「お父さんおかえりなさいパーティー」という退職後のお父さん達が地域で活動できるためのきっかけづくりイベントを、「地域デビューパーティー」という名前に変えて、若い世代にも広げて、多世代の人たちに市民活動の団体を紹介したり、一緒に活動しませんかといったことを紹介するイベントをこの 3 月にやる予定になっている。そこで学生さんや若い世代の人たちを呼び込みたいと思っている。
・先ほどもアワードの話が出ていたが、メニュー、選択、ご褒美、そして自主的に好きなことを楽しめるといいと思った。

井出委員　・先ほども言ったが、地域自治の成熟度をあげていくことは、すでに市民参加をして

いる人たちがさらに関与を深めていく、エリクソンのライフサイクル論的な視点から市民として行政としてのステージの達成を促す仕組みが大事だと思っている。
・その手法は紙ベースだけではなく、インターネット経由で、インセンティブや見える化がないと今後は難しい。
・町会自治会も一生懸命やっている人がさらに自治を深めている。
・行政の方もさらに情報公開をしなければならない。ここまではできる、ここからはできないということを発信していくことが必要だと思う。
・そういう関与をいかに深めていくか、人を増やしていくかで、市民参加を一生懸命やっている人には市民税を安くするとか議論も必要になってくるのでは。
・入り口を SNS などにして垣根を低くすることは大事だが、最終的には熱量がなくてはいけないし、人として成長できるのが市民参加をする意味だと思う。
・それには対面で直接会わないとだめだと思う。あまりデジタル化、デジタル化と言ってもうまくいかないと思う。

山本副会長　・市民参加推進の話であるが、市民参加に参加したくない人もいるし、市民参加に参加しない権利もあるし、市民参加に参加できること自体が、色々な意味で恵まれているので、それをみんなが目指すことを前提にすると違う議論になってしまう。
・参加しないことによる引け目とか、参加してるから偉いとか、そういう流れに行かない方がいいのではないかと思った。その方がまだ参加してない人も、いつかやってみようと思ってもらえるのではないかと感じた。

小林会長　・山本副会長が言ったように、経済的、時間的な余裕がない方々にとっては、ある種ファシズム的に市民参加、もしくは協働と言われると息苦しくなってくる。これは気をつけなくてはいけない。
・参加している人は楽しさ、やりがい、魅力を感じるから市民参加する。そういう意識を啓発するのが大事だ。
・アメリカの経営学者でハーバードの教授であるマイケル・ポーターが、企業は CSR（corporate social responsibility）、つまり社会的責任で、ボランティアや社会貢献で社会的な責任を負うべきだと言っている。ところが企業の経営者にとっては、営業をしてもらった方が利益が追求できる。マイケル・ポーターは、CSR という考え方をやめて CSV（creating shared value）、つまり企業として社会的な価値を創出してくことが、経済的な価値を生み出すといっている。
・社会貢献しているメーカーと、していないメーカーがあったらどちらの商品を買うか聞くと、アメリカのマーケッテイングで言われているが、今の若者は値段よりも社会貢献してる企業のプロダクトを買うと言われている。
・社会に貢献することを楽しんで、自分たちはよくやった、社会を良くした、面白かったという結果、自社の売り上げや、価値を高めていく。企業が社会的責任を負うという考えから一緒に作っていきましょうという考え方にした方が効果がある。
・行政のフロントラインにいる職員から、そういった意識を変えていかないといけないと思う。
・部長の立場からいかがか。

古川部長　・アフターコロナとかポストコロナ時代になり、デジタル化が急速に進んでいると思う。働き方が変わってきて、それが完全に戻っているかというと戻ってない。そうすると、市民の皆さんの地域への関わり方や市への関心が違ってくると思っている。

・市はまだ地域の皆さん、民間の皆さんと同じスピードになり切れていないと感じている。市全体で働き方、市民サービスの在り方を変えていかなければいけない。新しいサービスの提供の仕方へ変えていかなければいけないが、そこまで追いついていない。そういうところも含め、市民参加のあり方を、狭いところだけ見るのではなくて全体を見ながら進めていかなければいけないと思っている。

岡崎委員　・今、2040 年に向けての市の長期計画を策定しているが、そのために 37 中学校区で市民が参加してワークショップを開いたし、もうすぐ長期計画素案のパブコメが出ると聞いている。

・10 年前に八王子ビジョン 2022 という長期計画を策定した。市民会議を行って、市民の方約 200 名弱ぐらいが集まって各分科会に分かれて素案作りをした。それに私も参加した。その時に古川部長が事務局をしていた。６つ分科会があったがどの分科会も市の職員の方が寄り添って、励ましてくれて、アドバイスをくれた。

・市民が市の職員と一緒に何かを作り上げる、まさしく協働で、今の八王子ビジョン 2022 を策定したが、そのような成功体験があると、八王子のために自分の好きなことを活かして八王子の職員と一緒に何かやりたいという気持ちが自主的に湧いてくる。

・市の職員が地域に入ってボランティアをするのもいいが、もっと市民と行政の人が協力できる場を増やすとお互いに良い経験ができると思う。

小俣課長　・いろいろな意見を聞いて、企業へのアプローチの仕方や、ご本人自らが楽しんで参加するのは最もだと思った。

・当日配布資料１の D-6 にあてはまるパートナーがいる若い方や、結婚したばかりでお子さんがいない場合、時間的余裕があると思う。

・これから夫婦で生活していく方に対して、自分の住む街が綺麗で安全であるためにいろいろな活動があることを発信していけると市民参加につながるのではないかと感じた。

田中委員　・私がボランティアを続けている１つの理由は、結果がある程度でてくるからで、気持ちの上でやってよかったというのがあるからだ。

・私は平成 21 年に設立された南大沢の交通安全協会の会長を設立以来 11 年間やっている。交通事故の件数が段々減って成果が出てくるとやってよかったと思う。気持ちのうえでトレードオフしている。そういう気持ちでやらないとボランティアは長続きしない。ボランティアのインセンティブを目的にした人は長続きしない。そういう意味ではボランティアをやる人もそれなりに覚悟はいる。

・軽い気持ちから一生懸命やる人も出てくるかもしれないが地域のために役に立とうと思っていないとボランティアは長続きしない。ボランティアは大変だが、覚悟を持ってやってくれる人は頼りになる。

・私も高齢だからやめたいと思っているが、なかなか辞めさせてくれない。後継者を育てなければいけないが、みんな高齢化してきているのでなかなか難しい。

小林会長　・時間もわずかになってきたので、一人ずつ意見を伺いたい。

岡崎委員　・もともと市民参加とは何かずっと気になっていた。ボランティアだけではないし、奉仕だけでもない。市民参加を若い人たちに提示すると、何かいいことやらなければいけないという気持ちになるから、もっとほかの言い方がないかと思っていた。皆で一緒に八王子を良くしましょう、というようないい言葉があるのではないのか

と思った。

・先ほど言ったことと重なるが、楽しんで自主的に自分のできることをして、結果的に人に喜ばれて、良かったという人たちがいっぱいいる。そういう人たちも立派な市民参加だと思う。

・アプローチの仕方をもう少し変えて、ボランティアしなさい、働きなさい、地域に貢献しなさいというばかりではなく、あなたたちしかできない市へのお手伝いや、八王子市を元気にするためだという部分がもう少し見えてくるといいのではないか。

・今年度市民活動支援センターでは若者に特化して色々なイベントやシンポジウムを行ったが、そこで感じたことは若い人達は市民参加へのポテンシャルがあるということ。地域に貢献したいという気持ちがあるので、機会があれば喜んでまた参加したいと必ず言ってくれる。

・市の人たちと一緒になって、自分が力になれたような、成功体験のようなものを踏んでいくと、友達を呼んだりして広がっていくのではないかと思う。

・予備軍がたくさんいると感じているのでアプローチの仕方を工夫するとどんどん増えていくと思う。

井出委員　・ボランティアの4原則があって、自主性、社会性、無償性、創造性などがある。今、介護保険の生活支援体制整備事業では小地域福祉活動団体に補助金をだして、活動するボランティアさんにも多少の報酬が入る。今時代はそういう方向性に傾いてる気がする。

・先ほど田中委員が言ったように、長くやってるボランティアさんは、そういうものを辞退されるし、好きでやってるからインセンティブを望んでいない。そういう人達にもスポットをあてないといけないし、手軽さや見える化も必要だが、その辺が難しいと感じた。

・市と市民との協働の話で、さきほど岡崎委員と部長から話があったが、これからの協働は一緒に汗水流すことだと思う。この仕事をやらせるというのではなく、一緒に考えて行動することが、これから求められている行政像だと思う。

星原委員　・市民参加の動力として山田委員が面白さという話をしていたが、とてもいい観点だと思ったし、井出委員が言っていた人としての成長を組めたら、それがインセンティブとなる捉え方もあると思った。

・大学生には自分の将来に役立つボランティア活動となり、八王子にとっては活性化するようなことがあればいいと思った。例えば八王子の町の顔である甲州街道でシャッターが下りている店が増えているが、そこをレンタルスペースにして、学生のための企業活動の練習などをできる場所として使えるようにする。そういった活動を通じて、メイン通りの活性化となり、結果的に八王子の活性に繋がったら面白いのではないか。

・何か貢献しようとして市民参加すると荷が重いので、何かやってたら、結果的に八王子の活性化に繋がっていたというような逆の捉え方もあると思った。

繁野委員　・さきほど山本副会長も言っていたが、今活動している団体にもっとアプローチをして、その人達がより深くやってくれることも大事だし、まだやってない人たちがやることが大事だと思った。そのあたりのバランスを見ながら、入り込みやすくて、入った先で、特にやってなかった人が少し参加することによって、さらに参加して

いくような人に成熟していく可能性もあるので、市の発信の仕方で情報が届きやすくてわかりやすくなっていくといいと思った。

山田委員　・最初から市民参加はなんだろうって、もやもやしていた。私は八王子市に住んでいるということを、その人が意識しないと、いろいろなところに繋がらないと思った。

・自分が市からの手紙を受け取って市民委員に登録しようと思ったのは、子どもの時の環境にあると思う。私の住んでいる小門町は自治会活動が活発で、親が活動していた。子どもの頃の環境で、自治会活動への興味が備わっていた。今、そのカテゴリーの世代の人たちが知る、参加する、子どもたちにつなげる、そうすると 2040 年の未来の子供達にも繋がっていくと思った。コロナ禍でもどかしいが、人と人が繋がっているのが八王子だと思っている。

・ここ数年お祭りがないのがつまらない。若い世代でも、どっぷりはまるイベントなので、せっかくの機会を失ってもったいないと思った。イベントがオンライン以外でできるようになると違うと思った。画面ではなく、そこに出向くので、成長したり、知ったり人の役に立つということを感じると思った。

・一つの例えで２年くらい前に台風の被害があった時に、あるアーティストが小さいライブハウスでライブをやった。その売上金の一部を寄付していた。そのライブに私も行ったが、それも一つの社会参加だったと後から気づいた。

山本副会長　・先ほど岡崎委員が言っていた市民参加とは何かという話ですが、実はすごく多様で、かつ範囲が広いが、委員の皆さんもイメージがつかめてきたのではないかと思った。私が作成した資料自体が、古典的な市民参加を想定して作った資料だったと皆さんからの意見を伺いながら改めて気づいた。一つは 39 歳以下の方に参加してもらう中で、入り込み方や入り方も深かったり浅かったり、短期だったりある程度続けられたり、いろいろなメニューがあって選べることがすごく大事なんだろうと思った。一方で活動が持続的に続いて、地域の課題を改善するためには、田中委員のような意識を持った方がいることで変わっていく。楽しいとか自分が成長するといった事は大事なことではあるが、逆に言うと自分のことしか見えていない。それが悪いわけではないが、支える人、参加する人、両方がいて成り立っていくと思う。参加していく人の負担にならず、持続的に続けられるという事を考えると、田中委員は大変なことはないといっているが、これからの世代ができないようなことをしてくださった方達が支えてきてくれて、今の地域があると思う。これからはそういった方達に依存できないような時代にもなっている。みんなが楽しさを追求すると持続的に続いて行かない。その辺りを市でどのような支えができるのか、どういう体制作りに市が関われるのかと言うところも課題になると思った。これまで以上に幅広く市民参加をとらえることが今後必要になると気付いた。

小林会長　・第６期までは市民参加の６つの手法を想定していたが、第７期では皆さんの意見に象徴されるように、６つの手法だけでなく多様になっているということだ。市民参加推進条例が制定された時は６つの手法で想定されていが、時代の推移とともに多様化してきている。多くの委員が言っていた、市民参加とはなんだろうというところで、６つの手法で考える時代ではなくなっていると感じた。

・LINE による情報発信や前回の議論で意見のあった Instagram 等で情報の受け手側が目に見える形だけでなく、どこでどのような人がどういったことやっているかと言うマッチング機能も含めて可視化していかなければならない。岡崎委員が言ってい

た八王子を一緒に元気にしていく方法などが、我々が今議論してきたことだと感じた。

（３）次回以降の議論の内容

小林会長　　・「若い世代の市民参加の推進のについて」は今回で最後になる。次回以降はもう一つの諮問、「市民参加条例の運用状況の検証について」の議論になる。

２．その他・事務連絡

小林会長　　・ その他事務連絡について、事務局より説明を。

（事務局より次回日程説明。）

小林会長　　・ 次回は３月を予定している。日程が決まったら改めて通知する。

・以上で、本審議会を終了する。

閉会